

## 弥生土器のAMS<sup>14</sup>C年代(1)

山本直人 (名古屋大学文学部考古学研究室,

E-mail j46043a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)

小田寛貴 (名古屋大学年代測定資料研究センター,

E-mail L46851a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)

これまで石川県内の弥生時代の遺跡を対象にして、土器に付着した炭化物を試料にタンデトロン加速器質量分析計で<sup>14</sup>C年代測定をおこなってきており、その結果を報告するものである。採取した試料の詳細は表1に、測定の結果は表2に示すとおりである。弥生時代の資料ということで、暦年代が必要になってくることから、AMS<sup>14</sup>C年代とともに較正年代も記載した。

表1 採取試料一覧表 (重量の単位はmg)

試料番号	遺跡名	時期	土器様式	器種	付着部位	試料重量	処理後	残存率(%)
17SYH03	下安原	中期	第二様式	壺	内面・胴部	116.32	35.17	30.2
17SYH04	下安原	中期	第二様式	壺	内面・胴部	142.79	59.35	41.6
17OTN01	大友西	終末	月影I	甕	外面・胴部下半	161.38	77.60	48.1

表2 測定結果一覧表

試料番号	<sup>14</sup> C yr(BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	較正年代(cal BC)	測定コード
17SYH03	2122 ± 150	-24.5 ± 0.1	374 (158,133,128)58AD	NUTA-6676
17SYH04	2251 ± 129	-26.1 ± 0.1	403 (365,275,265) 158, 135 ( ) 126	NUTA-6724
17OTN01	1809 ± 75	-25.5 ± 0.1	130AD (235AD) 265AD, 280AD ( ) 329AD	NUTA-5487

### 謝辞

試料調整やタンデトロン加速器質量分析計による<sup>14</sup>C年代測定に際しましては、中村俊夫先生をはじめとして池田晃子氏、名古屋大学年代測定資料研究センター第一実験室の方々にはたいへんお世話になりました。記して深く感謝する次第です。

また、石川県埋蔵文化財センターの安 英樹氏、金沢市埋蔵文化財センターの出越茂和氏には貴重な試料を提供していただき、明記して謝意を表する次第です。

## 口頭発表

- 1) 山本直人・小田寛貴, 1999年11月, 「安城市東端貝塚・八剣貝塚のAMS<sup>14</sup>C年代と較正年代」『動物考古学研究会第4回研究集会』, 名古屋大学大学院人間情報学研究科.

## 論文等発表

- 1) 山本直人, 1999年3月, 「放射性炭素年代測定法による縄文時代の研究」『名古屋大学文学部研究論集』134 (史学45), 37-54頁, 名古屋大学文学部.
- 2) 山本直人, 1999年5月, 「AMS<sup>14</sup>C年代測定法による低湿地型貯蔵穴の分析」『動物考古学』第12号, 1-15頁, 動物考古学研究会.
- 3) 山本直人・小田寛貴, 1999年10月, 「八剣貝塚・東端貝塚の放射性炭素年代測定」『安城市史だより』第5号, 5頁, 安城市史編さん室.
- 4) 山本直人, 1999年11月, 「AMS<sup>14</sup>C年代測定法 考古資料への適用－縄文時代の炭化堅果類出土土坑の年代決定－」『いま, 歴史資料を考える』名古屋大学文学部創設50周年記念公開シンポジウム, 名古屋大学文学部.